
MODEL×3

☆ねこ姫☆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MODEL×3

【Nコード】

N3425C

【作者名】

☆ねこ姫☆

【あらすじ】

咲は高校1年生の十六歳。思い切って応募したMissixteenで一次審査を突破。二次審査（私服審査）は自信満々でルンルン♪だが！！！！なんか服がなあああい！！！！！！！！！！咲はどうなっちゃうのっ！？

第一話：あたしの服わっ！？（前書き）

第一話…あたしの服わっ!?

「でわこれからミスsixteenの二次予選をします。一番の方お願いします。」

二次予選が始まった。残ったのがたったの10人。

その中の一人が桐沢咲。私だ。

番号は4番目。

最初でも最後までもないから印象に残りズらいから余計緊張する……。

今回は、私服審査。私の周りの子とはとびっきりかわいい服の子、かつこいい服の子ぐらい。

「私はみんな決まってるいなあ。個性ないなあ。」

私服なら自信ある♪と自信満々でバッグをみると……持ってきた服がない。

私は一回も服を出してないのになくなる分けない……。

そしたら控え室のテレビに映る映像をみて私は自分の目を疑った……。

3番の岡崎姫でエース♥って私の服着てる……！！！！！！！！！！

審査員「かわいいね。姫ちゃんその服のコンセプトは???'」

姫「うんとお♥#9829;ちよい甘めのワンピースで甘くしてブーツで甘さ抑えてる感じ♥#9829;」

審査員「はいありがとう。次……」

っておいあたしちゃん……。

服ないよ……。

あっ！！！！！！！！

（NEXT）

さあ咲Cは何を思いついたんでしょう？

次回のモデルモデルモデル！よろしくお願いしますね♪

第一話..あたしの服わっ!?(後書き)

この話は誰でも読めるかな・・・？

と思って作ったもので、評価してくれればうれしいです。

次の回も読んでくれる方はぜひコメントくれればなあ。と思います。

第二話：なんとそこにわ！！（前書き）

〓 前回のあらすじ 〓

咲は今 S i x t e e n の二次予選（私服審査）に残り
自分の持ってきた服を姫にとられ、困り果ててると
そこにわ・・・！？

第二話：なんとそこにわ!!

アッ!!!!!!

あんなトコにSixteenモデルの

桐田美玲ちゃんと水川エレナちゃんがいる!!!!!!

えっ何ナニ????!!!!!!

こっちに来る?????????

わぁ超美人~~~~!!!!!!

感動おだわ!!!!!!

美玲..「あなた四番の咲ちゃんだね???私服なの???」

咲..「じ...実わ三番の姫ちゃんて仔が私の服着てるんです...なぜか...」

エレナ..「エレナたちが何とかしとくからその間渋谷108で買っておいでよ!!!!!!」

美玲..「うんうんO(^^)Oココ渋谷だしブランドはたくさんあるよ♪なんとかできるよつ!!!!!!」

咲..「えっそんないんですか???悪いですよつ(; _ < 111A、」

美玲..「私たち四番に目つけてたし遠慮ないよ!!!!!!私は、咲ちゃん仕事したいよ♪」

咲..「じゃ...じゃあ遠慮なく~~~~っ」

わあわっ私しやしやしや喋っちゃった!!!!!!

美玲ちゃんとエレナちゃんと喋っちゃったよおおお!!!!!!

|| 渋谷108 ||

よしっ!!!!!!じゃあ・・・やっぱmyLOVEブランドのtw
o*Wayに~~~~!!!!!!

おっかわいいの新作もいっぱいあるなあ・・・。

よし!!!!!!このセクシーなヒョウ柄ワンピースとニーハイソックスと
ネックレスとバングルとお!!!!!!

よしこれでいいやつ!!!!!!

あっあと靴をかわなあ!!!!!!

よしコノ、スニーカーブーツにしよう!!!!!!

よし審査場所へ~~~~急げ私急げ~~~~!!!!!!

|| そのころ会場でわ ||

審査員・・・四番??????四番!!!!!!!!!!」

美玲・エレナ・・・審査員の方々っ四番の仔わ今、髪の毛セット中な
ので次の仔にうつって下さい
♪あとでやらせてっ
ていつてたわよ♪」

審査員・・・そうか。じゃあ五番!!!!!!!!!!新垣美由っ!!!!!!!!!!」

会場・・・えっあの仔新垣結美の妹でしょ?????あのこで決まりね
エ。。。。」

会場・・・あれ!!!!!!母と娘の七日間の!!!!!!!!!!今大人気よねっ♪わ

っ私服もかつこいい!!!!!!!!!!」

〓二時間経過〓

審査員…「はいでわ後回しだった、四番桐川咲サン!!!!!!!!!!」

咲…「はい!!!!!!!!!!（緊張しかも最後って。）」

審査員…「おっコレまでにナイ・セクシー系ですね♪」

咲…「はい♪全部大好きなt w o * W a yです♪」

審査員…「そっか♪じゃあ服のコンセプトは???」

咲…「えっとワンピースは超セクシーなんですけどスニーカーブーツでスポ系セクシーにしました。」

審査員…「ありがとう♪じゃあ部屋に戻っていいよ♪」

〓控え室〓

どおしよう。すごく緊張しちゃった。

次までいけるかなあ・・・。

????…「超いいねその服っナイスちゃん☆ミ」

振り返るとエレナチャンと美玲チャンがいた。

咲…「二人ともありがとうございました。助かりました。二人と仕事できるように頑張ります　ねっ!!!!!!!!!!」

美玲…「もうすぐ結果発表だよ♪期待してるからねっ♪私たちは行くね♪」

咲…「はい!!!自分にできること精一杯頑張りますね♪」

よし私っまけない!!!!!!

〔NEXT〕

さぁ結果発表の結末は?????

咲はどうなる????そして泥棒…姫チャンは?????

第二話：なんとそこにわ！！（後書き）

最後まで読んでくれてありがとうございます♪

これは、第二話目ですが・・・読者の方が一向に増えませんが（笑）
ぜひ最後まで読んでくれた方は感想・評価などよろしく願います♪

第三話：二重人格（前書き）

話の内容がわからない方は一話から読むことを
オススメいたします♪

B
Y 猫姫

第三話：二重人格

よし私っまけない!!!!!!!!!!!!!!!!!!
と決意したものの・・・・新垣サンいるとナ・・・・。はぁ・・・（
ム、ム）

スタッフ「はぁい!!!!!!!!!!!!!!!!!!結果発表あるから舞台に一列!!!!!!!!!!
!!!!番号順にね!!!!!!!!!!」

咲「エレナサンも美玲サンも客席にいるんだよねエ・・・・。落ちた
ら顔合わせらんないよお（泣）」

|| 舞台へ・・・・!!!!!!!!!!!!!!!!!! ||

司会「でわ二次審査から次へいける方を審査委員長の方お願いいた
します!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

審査委員長「残るのは7名です。でわ発表します・・・・。

一番新垣由美 三番宇野田姫 四番桐沢咲 六番鈴木

真帆

八番根元ちか 九番羽賀ゆうき 十番弥生愛優

以上七名に決まりました。落ちた人達は受付で手続き
と、プレゼントがもらえま すので、お帰りください。」

〓控え室にて〓

??? 「ねェねェ♪一緒に残れた仔だよねェ???」

咲「あっ!!!」

うわぁこいつあたしの服とった姫ってやつだぁ（――メ）
今更何のようだYO!!!!!!

こいつめェはつきりいつてやろおかなあ!!!!!!

姫「あのおごめんなさいねェ・・・姫ェ自分のバッグと色一緒だし置き場隣だったから

間違えてとって着替えちゃったのお・・・急いでって言われて気づかずそのまま

出ちゃってねェ・・・大変なおもいさせて悪かったわねェ。

でも一緒に残れてよかったわ。迷惑かけるのだけわイヤだしね♪」

こいつうと思ってたけどいい人っぽい??? まあいいけどお嬢様だなぁ・・・。

てゆうか結構いい人っぽいし仲良くしとくか♪

なんか知らない人の中で一人って心細いしなぁ・・・

咲「気にしないで♪これからも二人で上にあがってこおね!!!!!!」

姫「チャンで友達になんて呼ばれてるの???」

アレレ?????なんか表情曇らせてる……。
悪いこと言ったかなあ……?????

咲「あの……姫ちゃん?????」

姫「姫……姫って呼んでよ……。」

アレ……なんか不気味な感じ……?!?!
まあいっかって……

ガシッ!!!!!!!!!!!!!!!!!!

咲「えっとちよつとまって姫ちゃんどおしたのよお……。」

ヒュ————ツ……

着いた場所は暗い不気味な建物……。

咲「ちよつとまって姫ちゃんここって何?!?!?」

ええちよつとマヂこわいよお (p|q)

姫「咲ちゃんってさぁ新垣由美より好評だったんだって。

あたし差し置いてさぁ新垣由美もぬいて……何様のつもり?
?????」

エッ!?!?!?!?!? ちょいちょい姫ちゃんてキレキャラ?!!?!? お嬢
様系のドレス着といてどんだけエ!?!?!?!?
しかも何様っておいおい!?!?!?!?!? ぎゃ!?!?!?!?!? 助けて!?!?!?!?!?

第三話：二重人格（後書き）

面白いと思ったらポチポチッと
感想評価送ってくださいね♪
お願いします♪

STBC!!!!!!（小説友達募集中）

第四話：お嬢様の秘密（前書き）

最後までよんでよかったら
感想欲しいですW W

第四話：お嬢様の秘密

ええ〜〜姫ちゃんて何モンよお（p|q）
よし！！！！！！はつきり言って帰ろう！！！！！！↑なんて甘い考え・
・（笑）

咲「あの！！！！実力だし、みんな一位狙ってるし私がそれで一位になっただけのことで

絶対誰かは一位になったかもしれないじゃないですか！！！！！！
！！！！ってことで帰ります！！！！！！」

わあ怖かったさあ咲！！！！！！家にダッシュよ！！！！！！！！！！
はあでもまた第三まであの仔残ってるんだし、気をつけなきゃ・・・
はあ怖いw w

！！家にて！！

はあ疲れたなあ・・・あつそおだよ！！！！！！！！
姫って仔お嬢様だし、どっかのグループの仔とか！？！？
P Cで調べよおっと♪

カチカチカチ・・・カチカチ・・・
アアッ！！！！！！！！

この仔ってやばいじゃん・・・

お嬢様と見せかけといって暴力団所属???

のわりにカワユス・・・。

てかやばいこと色々やってるツポ・・・。

これ以上出てくると怖いから、見るのやめておこうかな・・・。

Ⅱ夕食で・・・恐るべき事実が。Ⅱ

ルンルンルン♪

咲「何でそんなウキウキなワケ???'」

兄貴が本もって下りて来た。

しかもグラビアってホント男ってエロイ(怒)

兄貴「うわぁ宇野田姫また脱いでんの???セクシ〜〜(嬉)」

咲「宇野田?!?!ってSixteenに応募してる仔じゃん!!
!!!やばあい!!!!」

兄貴「うそうそおサイン欲しい!!!!咲サマ(※人※) オ・
ネ・ガ・イ♪」

咲「あんな腹黒にサインもらうか馬鹿!!!!!!」

パクパク・・・ごちそうさまっぢゃぁねっ(一一一メ)

Ⅱ第三審査Ⅱ

司会「今回は、特技を披露してもらいます!!!! あらかじめ知らせておいたので

準備はバントンですね???

でわ一番新垣由美サン特技は、アクロバット!!!!」

客「うわあすごいわね!!!! 側転やバック転もできるなんてかっこいい!!!!」

司会「はいありがとうございます次は宇野田姫さんで特技はバレエ」
♪

客「すごいしなやかでいいわね〜てカやわらかいわね〜」

司会「はい次は、第二審査でトップで突破!!!! 桐沢咲サン特技は、ヒップホップダンス!!!!」

客「すごいカッコイイ!!!! あこがれるわネエ。」

Ⅱ三時間経過Ⅱ

司会「はい全員が終わったところで、個性がミナサンあふれてましたが!!!!!!」

自分が一番個性が出せていた人にボタンを押してください!!!!!!」

ピピピピピピピピピッ!!!!!!!!!!

司会「ええっと一位…新垣由美 二位…桐沢咲 三位…弥生愛優
四位…鈴木真帆 えっと五位がダブってるのでこの中で
イイ人にいれてください!!!!!!!!!!」

ピピピピピピピピピッ!!!!!!!!!!

司会「ええっと根元ちかサンが入りました!!!!!!!!!!」

この五人の中で二人選ばれます。皆さんお疲れ様でした!!
!!!!!!!!!!」

やったあ咲感動っ!!!!!!!!!!

新垣さんのアクロバットはかっこよかったなあ。

声かけて友達になろっかなあ……

咲「新垣サン!!!! アクロバットすごいね♪感動したよ♪

よかったら友達にならない??? 二人でs i x t t e n目指そ
うよ♪」

新垣「私でいいなら別にかまわないわ。

姉貴めあてでなら友達になんかならないで!!!!!!!!!!」

咲「あのお大丈夫だけど……というかお姉サン新垣結〇サンなん
だ!!!!!!!!!!」

新垣「ぷっ（＊ー□ー）こんな仔初めてっ!!!!!!!!!! いいよ友達ね
~~~~」

??? 「あれ???? 由美なんでココにいるのお????」

新垣「ぎゃ~~~~~n」

|| NEXT STORY ||

由美ちゃん絶叫そのわけは????

姫の復讐があああ????



#### **第四話：お嬢様の秘密（後書き）**

この先キツトまだまだ続くよ W W

## 第五話：由美×絆（前書き）

楽しく読んでいって下さいね♪

## 第五話…由美×絆

によによお????

なんで絶叫?????だってアレは・・・

咲「由美ちゃん?????どおしたの???」

????「あれ????由美の友達の子????もしかして咲ちゃん???

咲「ああああ!!!!!!もしかして新垣結依サン????わああ母と娘の七日間見てます(≡▽≡)」

結依「ありがとお♪妹がお世話になりますwwメアド交換してもらえない???」

咲「はい!!!!!!もちろんです!!!!えっとじゃあ赤外線で・・・」

(※、▽、) b送信↪受信 d (、▽、※)      ゑゑ完(※、  
(エ)、)了ゑゑ

結依「ありがとおwwあ雑誌の取材あるからぢゃあねっ☆」

咲「はい!!!!!!またメルでもします!!!!!!さよならッ」

由美「うちの姉貴あんなんでゴメンネェ・・・σ(、□、;)」

咲「芸能人なのにしゃべりやすくていいじゃない♪うちの兄貴よりずっと素敵♪」

由美「お兄サンに会ってみたいな（笑）」

咲「予定が合えばあたしんち来る???」

由美「いいともお!!!!（笑）」

咲「そおいえば次って審査なに???」

由美「あつ次ってもおs i x t e e nの紙面で誰が選ばれるかだよね♪がんばろお→→→」

咲「うn w wじゃねっ☆ミお姉さんにヨロシクw w」

Ⅱその頃姫わというとお???Ⅱ

家にて復讐の作戦を練ってるところ・・・。

姫「あいつつ許さないっ・・・」

ブスッ!!!!

ナイフで刺されたのは、咲×姫と書かれた人形だった・・・。

||次回予告||

姫の復讐&結果発表間近!!!

由美&咲は????

人形の謎は????

## 第五話：由美×絆（後書き）

楽しく読めればよかったんですけど  
初作品そうでしたか???

初ってことで参考にしたいんで、感想  
m (。|。 ) m オネガイシマス

## 第六話：姫の復讐・・・（前書き）

たくさんの方に読まれているみたいで  
とてもうれしいです。

楽しく読んでいってください!!!

## 第六話：姫の復讐・・・

「ねえねえ今月のsixteen買った??？」

「買ったよ♪誰に投票する??？あたしはやっぱ……………」

街中からそんな声が聞こえてくる。

♪～イケナイ太陽nananananananana～♪

咲の携帯が鳴った。

由美から電話だった。

咲「はいはい♪由美どうしたn??？」

由美「実わ話があるんだけど今からウチこれない!？」

咲「いいけど…………??？」（Stの結果でドキドキしてるのかな？）

由美「一回来たから分かるよね??？ぢゃあ…………急にゴメン…………」

〓由美宅で〓

ピンポン……………



結依「あっいらっしやい♪この前メールありがとうね♪」

咲「いえっ!! 今日仕事お休みなんですか??? (由美はどおなんだろう・・・???)」

結依「うん今日は夜からだしね♪由美部屋で待ってるよ♪上がって」  
♪

咲「おじゃまします・・・ (由美の部屋は二階だったよね・・・)」

コトコトコト・・・

コンコンッ

咲「由美ッ入るよ・・・♪」

由美「咲ッ・・・」

由美が泣いて抱きついてきた・・・

咲「どうしたのよッ!!!! 話して!!!! 何があったの????」

由美「実は姫の仕業だと思うんだけど、私と咲の部屋にカメラがついてて

パソコンでその映像が流されちゃってるの・・・。私ッ・・・  
ごめん咲ッ!!!!」

由美は泣き崩れてしまった・・・。

咲「泣かないでよでも姫の仕業だなんて許せない・・・私たちをモデルにさせたくないのよ。」

由美「これってでも投票に響くよいね・・・どうしよう・・・」

ぷるるるるるるる・・・♪

咲「あ電話だ・・・（アレ????非通知????）」

咲「もしもし????誰ですか????」

????「姫でエす♪ただ今彼氏募集中♪なってくれるならメールちよ・う・だ・い♪」

咲「もしもしッ????あれ切れちゃった・・・」

由美「咲ッそれって流すだけ流して適当な番号でみんなに流してるヤツじゃない????」

咲「マヂッ!!!!ってあたし等どんだけ姫に付きまとわれてんのおおおお・・・」

|| pm 10時 ||

咲「うーnやっぱ姫とわけりをつけるべき・・・」

由美「あっこんな時間だ!!!!よかったら服貸すし泊まらない???

咲「うnそうするよ♪ありがとおww」

こうして二人は仲良く過ごし  
硬い硬い絆を手に入れました・  
・  
・

第六話：姫の復讐・・・（後書き）

面白くかけていましたか？？？  
また読みに来てください！！！！

## 第七話…ついにキタ〜

「ねェねェ今からお洋服着てファッションショーしない???」

「いいね〜じゃあ服貸してもおらおつと♪アクセとか服の小物も使お〜つと」

長い長い、一夜をすごし

次の日、なんとSTモデル発表日。

私たちはダントツで選ばれたらしい。

二人で編集室へ。

するとそこにはお世話になった、美玲ちゃんがあッ!!!

「あの時はどうもッ!!!!!!」

と深く礼をした。

「咲ちゃんゆみちゃんあさつての撮影のときにまた会おうねッ。じゃあ」

「えええええ???あさつてにさつえい〜〜??.??.?」

ふたりで編集室いっぱいに驚きの声が響いた。

「由美ッウチで早速ポーズ&着ていく服決めるわよ〜」

「うん〜。あああ咲ちゃんまって〜足速いよ〜」

〓一時間後〓

「うんこんな感じ??」

と由美と咲がポーズ練習。いつの間にか笑い方面になってコマネチとか  
やってるけど大丈夫か、ふたり!!!

woooooイケナイ太陽nananananananana  
—nananananana—nana

「あっ由美ゴメン電話着たわ。まあ一人で練習しててッ」

「もしもし??」

「あのッ急にゴメンなさい。姫です。悪いことじゃないの。話したいから

咲チャンちの近くの一本木公園にいるわ。今からきてくれない??  
??おねがいっ。」

「うん由美も連れてっていい??」

「いいわ。じゃあ待ってるから。」

## 第七話：ついにキター（後書き）

たくさんの方に読んでいただいて光栄ですが  
そろそろ最終回が近くなってきました。  
新作もよろしくお願いいたします。



## 第八話：消えてた真実

「姫さん、ごめんね待った？よね・・・」

「いえ。実は・・・色々悪い事してきたのには理由があっていつまでもこんな事してちゃ悪いし、言おうと思ったの・・・。」

「うん・・・で???」

「私は小学校二年生のとき転校してきたの。」

中田小。咲さん。あなたのいたクラスに、私は入ったの。

私は、友達ができ初めて、みんなが咲さんがおしゃれでねークラスの人気者なの！

と言っていて、へえーと思って仲良くなりたくて話しかけたの。そしたら、ぶりっことは仲良くしない主義なの。って・・・。」

そういつて姫さんは

泣いてしまった。私は過去に自分が言ったことの重さを感じた。姫さんに私は、話しかけた。

「ごめんね。私が悪かった。」

今は仲良くしたいと思ってるよ？ねっ！私たち友達よ♪姫ちゃんも早くSTモデルになってね！！！  
じゃあ私達帰るね」

私は姫ちゃんに大きく・大きく手を振った。

「姫ちゃんて、いい子だったんだね。  
咲ちゃんも今度から気をつけないとね♪」

と由美が慰めてくれた。

「うん。由美には迷惑かけたよね。  
お礼にあたしのお気に入りのアクセあげちゃうっ☆」

「わあい☆じゃあ今度の13日のSTの撮影日に持ってきてね☆」

「うんッじゃあね」

私は由美に笑顔で手を振った後  
後ろを向いて走って帰った。  
やっぱり姫ちゃんに、酷い事したジブンが

許せないから・・・。

姫ちゃん、本当に  
ごめんなさい。

ジュバツ

咲が部屋に入ったとたん  
何かが切れる音がした・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3425c/>

---

MODEL×3

2010年10月20日03時02分発行